

Under40

神戸西区ランドスケープデザインコンペ

最優秀賞

[Stitch Terrace]

土井香奈・松宮周平 / OH

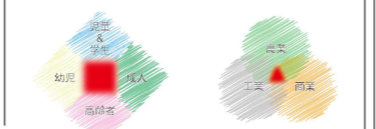
[講評]

「Stitch」という1つの軸が高さや大きさを変えながら照明やテーブル、ベンチに変化しデッキに織り込まれていく提案。建築でもランドスケープでもなく単なる家具でもない、インテリア寄りな提案で、サインを設置したり、照明を設置したりとさまざまな装置になりうる可能性を感じた点が高い評価を得た。建物との連携、空間の関係性が若干弱い点が課題と感ずるため、今後の作りこみにおいて建物側に設けられた Co 部屋との関係性をより大切にしながら進める必要がある。

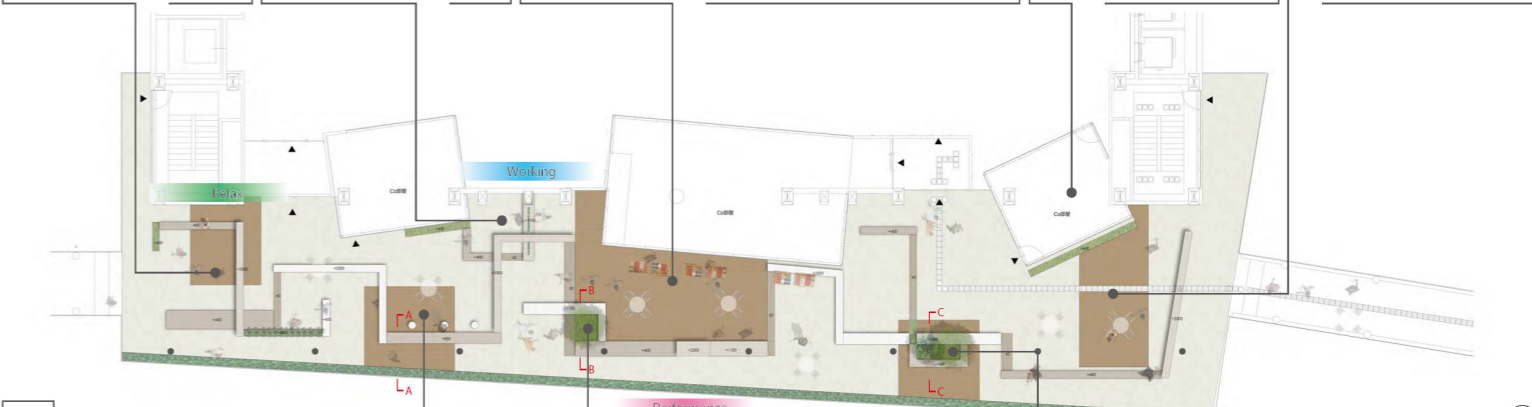
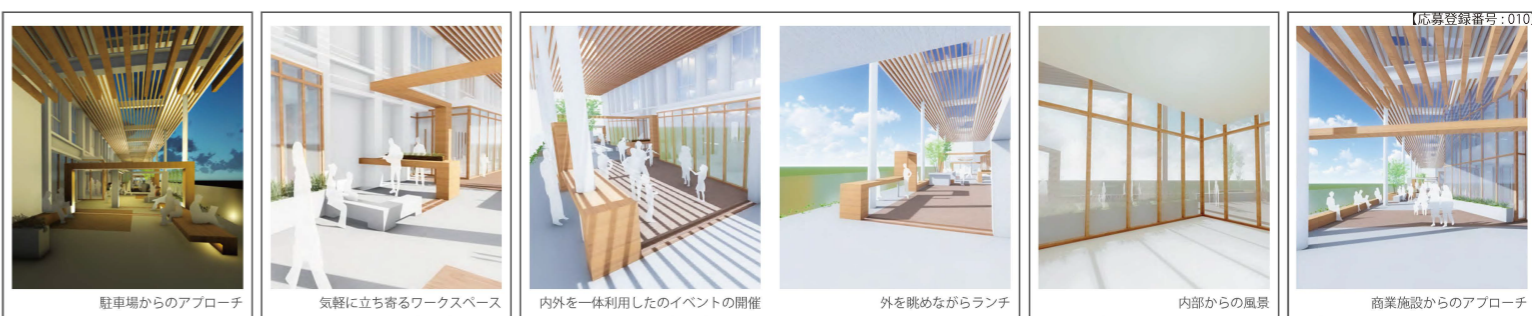
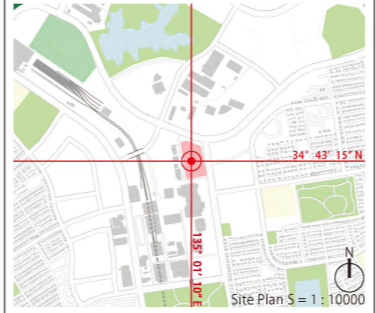


1 Research & Concept

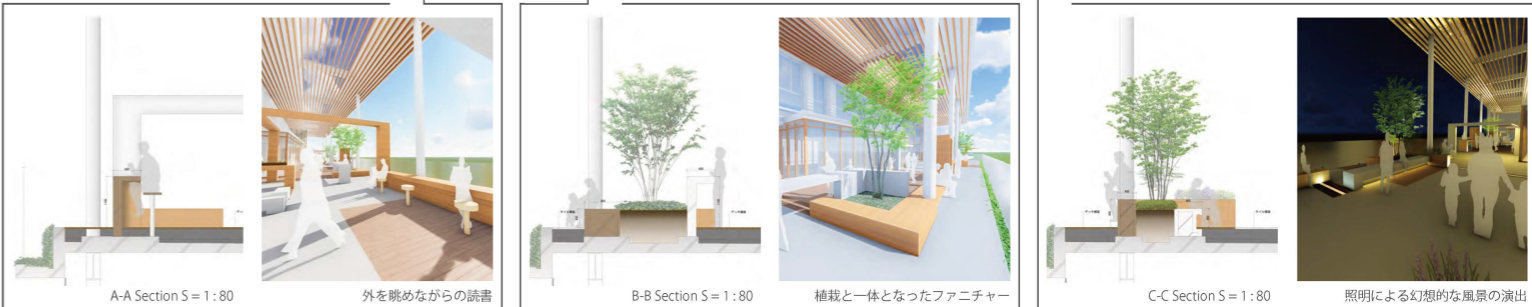
人口比がバランスよく保たれ、子供から高齢者まで幅広い住民が生活している。また、産業もバランスよく展開され、『職住一体型』の街が形成されている。



対象敷地周辺には地下鉄西神中央駅、大型商業施設、住宅、教育機関、公園があり、生活導線の中心に位置する。今は、商業施設や公園に多くの人が集まりにぎわっている。新たに住民の人々が、気軽に立ち寄れる場を作ること、街の顔であり中心的な拠点となる庁舎の価値を高める。

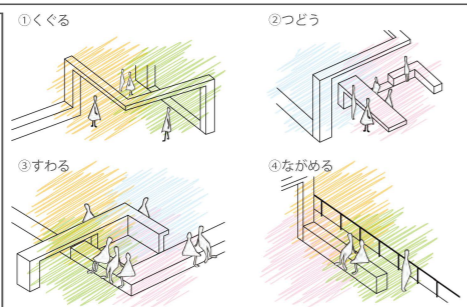


4 Plan & Section



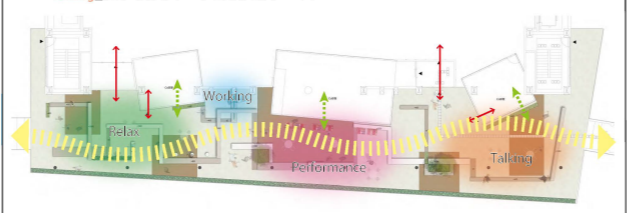
2 Design Diagram

建築をたて糸、デッキをよこ糸とし、主軸となる1本の線形（デッキ）が、照明⇄テーブル⇄ベンチ⇄プランター⇄デッキへと移り変わりながら、糸を織りなすように建築と交じり合い、住民が利用することで『建築（たて糸）』と『デッキ（よこ糸）』が織り込まれていく。建築・デッキ・人がともに空間を構成し、アクティビティを作り出していく場所。



3 Zoning

Relax_ ゆったりとしたベンチでくつろぐスペース
Working_ カウンターを利用し作業するスペース
Performance_ 広いデッキ空間を用い、展示や表現をするスペース
Talking_ 座っておしゃべりを楽しむスペース



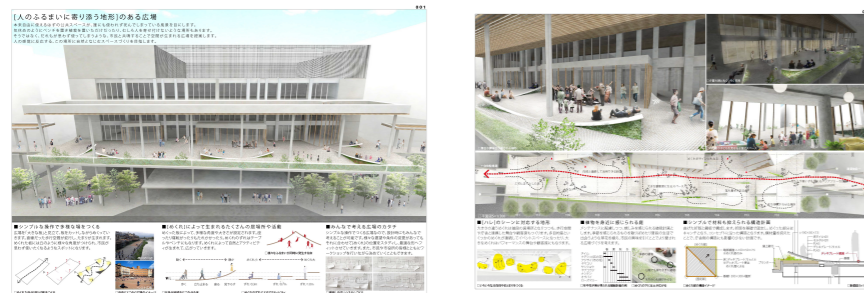
Under40

神戸西区ランドスケープデザインコンペ

優秀賞 (順不同)

["人のふるまいに寄り添う" 地形のある広場]

太田翔・武井良祐 / OSTR

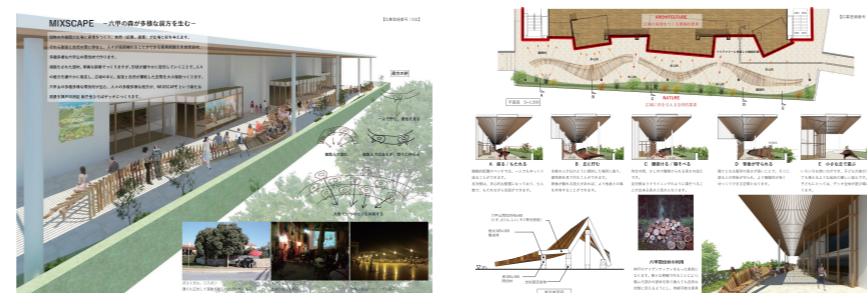


[講評]

「床をめくる」という一つの手法を全体に展開し、人の動きを作る空間的にもひろがりがある提案。老若男女が訪れる区役所という用途において、座りやすさ、安全性にやや不安が残る評価であった。

[MIXSCAPE]

北川浩明・川上真誠・姫治恒太 / COCCA



[講評]

六甲山の間伐材で作るベンチを建物に呼応させて、形状を変化させる提案。間伐材の利用やベンチの透過性について評価が高かったが、実際のベンチとしての実用性を考えると、開放的な空間の良さが損なわれる提案であった。

[スカシミ - 領域をつくるアーチ壁の奥に西区が透かし見える広場 -]

木村友哉 / 神戸大学大学院工学研究科

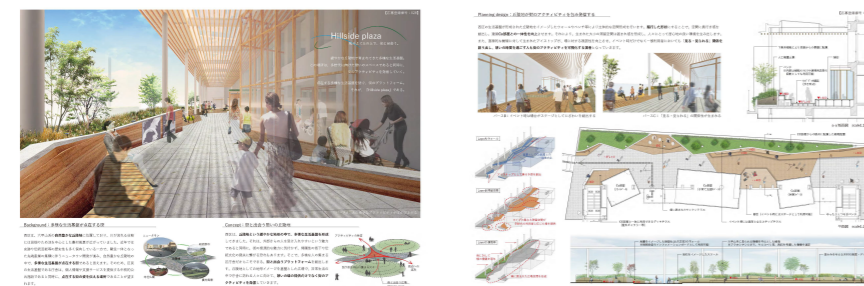


[講評]

Co 部屋の軸線を基準にメッシュ状のアーチを設けた提案。プランニングの獨創性は評価されるが、メッシュにツタなどの植栽を設置することでメッシュの透過性が失われるというコンセプトの矛盾があることと、メッシュ自体の施工性に課題が残った。

[Hillside plaza]

石井佑介 / I+S



[講評]

商業施設から新立体駐車場までの歩行者動線を明確に確保し、片側にベンチを設けた広がりがある提案。実現性という点で非常に評価の高い提案であるが、片側に空間、片側にベンチを置くという既視感がぬぐえない印象であった。

[居場所 = ゆらゆらりの縁側]

永本聡 / 神戸大学大学院



[講評]

布を全体に使用した非常に獨創性の高い提案。布のやわらかさを生かしたゆらぎの状態なども提案している。布の使用という点で維持管理および外部空間への開放性に課題がある点で実現性に疑問が残る提案であった。